

水道水を じゃん×2 飲もう!

じゃ口をひねれば水が出る、トイレを使えば水で流す・・・日常のなかで何気なく水道水を使うことは「当たり前」のこのように思う方もいらっしゃいませんか。

そんな水道水について「じゃ口の水はどこから来ているのか」「なぜ川西市の水道水は安心・安全でおいしいのか」など、意外と知らないことが多いのではないのでしょうか。

今月の特集「水道水をじゃんじゃん飲もう」では、水道水に関する情報を「ヒミツ」と「チカラ」をテーマに紹介します。

日々の生活に欠かせない「あつて当たり前」の水道水のさまざまな情報を正しく理解していただき、水道水をじゃんじゃん飲んでください。

水質検査を徹底

川西市では、毎月市内の給水栓6カ所で採水して、法定77項目+市独自15項目=92項目について水質検査を実施しています。特に「味」「臭い」の項目では、水を40〜50度に温めて職員が口に含んで確認しています。水質検査の結果については、毎月ホームページにて公開しています。

また、家庭にお届けしている水道水は、市内の水道モニターの方にも、毎日残留塩素(※1)の濃度や水の濁りを確認していただいております。



※1 残留塩素：雑菌などを分解した後に残っている塩素



安心・安全を届ける 水道水のヒミツ

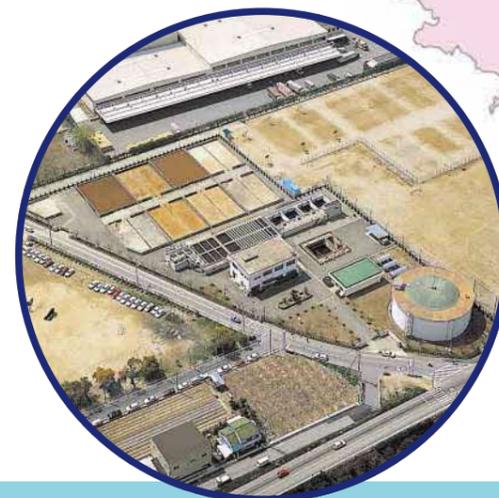
どこで作っているの?

多田浄水場

兵庫県企業庁が運営する多田浄水場は、猪名川の水を原水として、市の中～北部地域や近隣他市町に水道水を供給しています。

久代浄水場

川西市が運営する久代浄水場は、加茂及び久代地域の最深地下150mからくみ上げる地下水を原水として、市の南部地域(久代、東久代、加茂、下加茂、栄根、南花屋敷)に水道水を供給しています。



塩素が入って大丈夫?

塩素には消毒効果があり、水道水の安全性を確保しています。日本では、安全性を保つため水道水に1Lあたり0.1から1.0mgの残留塩素が含まれることが水道法で規定されています。これは世界保健機構(WHO)が定める、生涯にわたって飲み続けても健康に影響が生じない濃度です。安心して飲んでいただけます。

水道水に残留塩素が含まれていないと、雑菌が繁殖し安全な水道水を供給できなくなります。むしろ「塩素が入っているから大丈夫」なのです。

PFOS・PFOAって何?

有機フッ素化合物の一種であるPFOSとPFOA(※2)は健康への影響を与える疑いがあることから、国が令和2年に水質管理目標設定項目として、PFOS・PFOAの合計値で1Lあたり50ng以下とする暫定目標値(※3)を定めました。

川西市では令和2年から原水と浄水にてPFOS・PFOAの測定を実施し、暫定目標値を下回っていることを確認していますので安心してご利用ください。

PFOS・PFOAへの対応につきましては、検査結果をホームページで公表するとともに、引き続き水質検査による水質管理に努めながら、国の動向を注視し適切に対応してまいります。

有機フッ素化合物測定結果

	原水 (令和6年11月19日採水)	浄水 (令和6年11月12日採水)
暫定目標値	50	50
川西市 (久代浄水場)	17	17

(単位：ng/L)



※2 PFOS(ピーフオス)：ペルフルオロオクタンスルホン酸、PFOA(ピーフオア)：ペルフルオロオクタン酸
 ※3 暫定目標値：体重50kgの人が水を一生にわたって毎日2L飲用したとしても人の健康に悪影響がないと考えられる水準

どうやって作っているの?

(久代浄水場の場合)

①着水井
井戸からくみ上げた地下水が最初に入ってくるころ

②混和池
汚れを固めて取り除きやすくするため、水と薬品を混ぜ合わせるころ

③沈殿池
固めた汚れ(汚泥)を底に沈めて水をきれいにするころ

④ろ過池
砂の中に水を通すことで、細かい水の汚れをさらに取り除くころ

⑤浄水池・送水ポンプ
きれいになった水をためて、配水池へポンプで送るところ

⑥配水池
浄水場から送られた水をためておくころ

※配水池から各家庭、学校、工場などのじゃ口へ